

六道



この記事は **検証可能な参考文献や出典** が全く示されていないか、不十分です。

出典を追加して記事の信頼性向上にご協力ください。（2015年8月）

六道（ろくどう、りくどう）とは、**仏教**において、衆生がその業の結果として**輪廻転生**する6種の世界（あるいは境界）のこと^[1]。六趣、六界ともいう^[1]。

六道には下記の6つがある^[1]。

- **天道**（てんどう、天上道、天界道とも）
- **人間道**（にんげんどう）
- **修羅道**（しゅらどう、阿修羅道とも）
- **畜生道**（ちくしょうどう）
- **餓鬼道**（がきどう）
- **地獄道**（じごくどう）

このうち、天道、人間道、修羅道を**三善趣**（三善道）といい、畜生道、餓鬼道、地獄道を**三悪趣**（三悪道）という^{[1][2]}。ただし修羅道を悪趣に含めて**四悪趣**（四悪道、四趣）とする場合もある^{[1][3]}。六道から修羅道を除いて**五道**（五悪趣、五趣）とすることもある^{[1][4]}。

仏教用語 六道

英語	wheel of life, wheel of cyclic existence, etc.
パーリ語	bhavachakra (Dev: भवचक्र)
サンスクリット語	bhavachakra (Dev: भवचक्र)
日本語	六道
チベット語	ཤིང་པའི་འཁོར་ལོ་ (Wylie: srid pa'i 'khor lo; THL: sipé khorlo)

目次

六道一覧

歴史

観音信仰

六道輪廻図

脚注

注釈

出典

関連項目

六道一覧

天道

天道は**天人**が住まう世界である。天人は人間よりも優れた存在とされ、寿命は非常に長く、また苦しみも人間道に比べてほとんどないとされる。また、空を飛ぶことができ享樂のうちに生涯を過ごすといわれる。しかしながら煩悩から解き放たれておらず、仏教に出会うこともないため**解脱**も出来ない。天人が死を迎えるときは5つの変化が現れる。これを**五衰**（**天人五衰**）と称し、体が垢に塗れて悪臭を放ち、脇から汗が出て自分の居場所を好まなくなり、頭の上の花が萎む。

人間道

人間道は人間が住む世界である。四苦八苦に悩まされる苦しみの大きい世界であるが、苦しみが続くばかりではなく楽しみもあるとされる。また、唯一自力で仏教に出会える世界であり、解脱し仏になりうるという救いもある。

修羅道

修羅道は阿修羅の住まう世界である。修羅は終始戦い、争うとされる。苦しみや怒りが絶えないが地獄のような場所ではなく、苦しみは自らに帰結するところが大きい世界である。

畜生道

畜生道は牛馬など畜生の世界である。ほとんど本能ばかりで生きており、使役されるがままという点からは自力で仏の教えを得ることの出来ない状態で救いの少ない世界とされる。他から畜養（蓄養）されるもの、すなわち畜生である。

餓鬼道

餓鬼道は餓鬼の世界である。餓鬼は腹が膨れた姿の鬼で、食べ物を口に入れようとすると火となってしまう餓えと渇きに悩まされる。他人を慮らなかつたために餓鬼になった例がある。旧暦7月15日の施餓鬼はこの餓鬼を救うために行われる。

地獄道

地獄道は罪を償わせるための世界である。詳細は地獄を参照のこと。

このうち、地獄から畜生までを三悪趣（三悪道、あるいは三悪、三途）と呼称し、これに対し修羅から天上までを三善趣と呼称する場合がある。また地獄から修羅までを四悪趣と称することもある。

また六道から修羅を除いて五趣（五道）と称することもある。初期仏教では、地獄・餓鬼・畜生・人間・天上を五趣とし、修羅はなかった。つまり五趣の方が六道より古い概念とされる。これは当初、修羅（阿修羅）が、天部に含まれていたもので、大乘仏教になってから天部から修羅が派生して六道となった。したがって、これらを一括して五趣六道という。

歴史

仏教成立以前の古代インド思想を起源とし、原始仏教においてはさほど重大な意味を為さない。体系化が進行したのは後代と考えられる。

インド・中国起源ではないが、日本では11世紀ころ、六道の各々に配当された六地藏が各所に祀られ、大いに庶民から信仰された。

観音信仰

観音菩薩の導きで六道世界より救われるという観音信仰がある。その六つの世界に応じたそれを六観音とよび天台宗と真言宗とでは、人間道のそれが不空羅索観音と准胝観音とで異なっている。七観音とよばれるものは、この二観音を含めたものである。



六地藏

六道	真言宗の六観音	天台宗の六観音
天道	如意輪観音	
人間道	准胝観音	不空羅索観音
修羅道	十一面観音	
畜生道	馬頭観音	
餓鬼道	千手観音	
地獄道	聖観音	

六道輪廻図

六道輪廻図ではそれぞれ、

- 怪物と骸骨 - 無常大鬼
- 外周の円環 - 人の行い（十二因縁）
- 次の内側円環 - 六道（上半分が天道・人道・修羅道の三善趣。下半分が畜生道・餓鬼道・地獄道の三悪趣）
- 最も内側の円環 - 人（右半分が悪行により地獄道に落ちる姿、左半分は善行により天道に行く姿）
- 中心の円 - 貪（鳥）・瞋（蛇）・癡（豚）の三毒

を表している。

脚注

注釈

出典

- ↑ *abcdef* “六道(ろくどう)とは - コトバンク (<https://kotobank.jp/word/%E5%85%AD%E9%81%93-152669>). 朝日新聞社. 2017年10月13日閲覧。
- ↑ “趣(しゅ)とは - コトバンク (<https://kotobank.jp/word/%E8%B6%A3-76662>)”. 朝日新聞社. 2017年10月13日閲覧。
- ↑ “四悪趣(しあくしゅ)とは - コトバンク (<https://kotobank.jp/word/%E5%9B%9B%E6%82%AA%E8%B6%A3-515351>)”. 朝日新聞社. 2017年10月13日閲覧。
- ↑ “五道(ごどう)とは - コトバンク (<https://kotobank.jp/word/%E4%BA%94%E9%81%93-502940>) 朝日新聞社. 2017年10月13日閲覧。



六道輪廻図（ラサのセラ寺）

関連項目

- [上座部仏教](#)
- [大乘仏教](#)
- [十界](#)
- [三界](#)
- [六道絵](#)
- [輪廻](#)

「<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=六道&oldid=67056926>」から取得

最終更新 2018年1月21日 (日) 04:08（日時は個人設定で未設定ならばUTC）。

テキストはクリエイティブ・コモンズ表示-継承ライセンスの下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。詳細は[利用規約](#)を参照してください。